

令和7年度 関川村立関川小学校 校内研修計画

学び方を決め、課題の解決に向かう子どもの育成(2年次) ～解決場面における教師のあり方に焦点をあてて～

1 研究主題設定の理由

(1) 現代社会の情勢から

現代社会は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」と呼ばれている。また、新型コロナウイルス禍を経て、今後益々予測困難な時代になると予測されている。そのような時代において、令和3年1月26日の中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、下記のような資質・能力の育成を、新学習指導要領の着実な実施やICTの活用などにより育む必要があるとされている。

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること

また、これまでの日本型教育の成果と課題を整理すると、学習指導や生徒指導で児童生徒の成長を総合的に把握し、成長を支える日本型教育は高い評価を得ている。一方で、子どもたちの多様化やデジタルデバイスの使用が低調であることなど、課題も非常に多い。予測困難な時代を迎えているにあたり、学校職員の教育観を更新する時代を迎えているともいえる。

そして、この答申の中では、2020年代を通して実現すべき「令和の日本型教育の姿」として、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を挙げ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが重要であるとしている。

今年度の研修主題にある「学び方を決め」は、解決する課題に対し、児童が自分にあった方法を選択・決定し、他者と対話しながら課題の解決を行っていくという姿を想定している。主体的に課題を解決するその姿は、令和の日本型教育の姿と一致するものになるだろう。

(2) 昨年度までの関川小学校の研究から

昨年度は、研究教科を「国語」「算数」「社会」「理科」の4教科とし、各学級が授業実践を行った。実践を重ねる中で、課題設定後に児童に委ねて課題解決を行い、その姿を見取る授業者の姿が見られるようになった。授業者が、上述した「令和の日本型教育」や、校内研修計画を意識して授業改善を行った結果であるといえる。

しかし、授業観の転換期を迎えていることもあり、課題も多く見られた。下記がその内容である。

- ・授業者の見取りと発問の質
- ・一単位時間にとらわれない、単元構想力
- 主に、「授業改善」の視点
- ・児童が学び方を自覚する振り返りの、量的、質的向上
- ・自由な中でも、児童が課題解決に向かう教室環境や学級経営の在り方
- 主に、「学級経営」の視点

課題は、「授業改善」と「学級経営」の2つの視点に分類することができる。「授業改善」については、児童が学び方を決める場面を授業の中に取り入れることは増えたが、その後の解決場面における教師の役割や、一単位時間にとらわれて課題解決学習を行うことが研究の実態に合わない場合もあった。「学級経営」については、児童自身が自分の学び方をどうとらえているか、友達と協働的な学びを進めることができたかといったメタ認知の視点であるそもそも協働的な学びのためには安心できる教室環境がないと成立しないという課題も見られた。

(3) 関川小学校グランドデザインから

今年度の関川小学校のグランドデザインはESD（Education for Sustainable Development）である。そのESDで目指しているSDGsは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略であり、2030年の世界をよりよいものにするを目的に生まれたものである。世界共通の合い言葉でもあるSDGsには、人権問題や環境問題、多様性の理解など、現代社会に見られる課題が含まれており、関川村においても同じような課題があるといえる。

現代社会における諸課題の解決にむけて、教育活動の中で児童が問題意識を高め、自ら課題の解決に向かう

力を育てていくことが重要になる。教科や領域の中に SDGs の視点を取り入れながら学習を行うことで、学校での学びが社会とつながり、地域の発展や課題の解決につながっていく姿を目指す。また、持続可能な教育活動を目指すために、これまで踏襲されている教育活動を改めて見直し、児童の資質・能力を育むものになっているのかを精選していく。

2 研修の内容

(1) 研究の方向性

昨年までの関川小学校の校内研修の成果と課題をもとに、今年度を本研修主題の2年目とする。今年度も、「学び方を決め、課題解決する子ども」「解決場面における教師のあり方」を、研究の中心に据える。2年次となる本年度は、特に「解決場面における教師のあり方」に焦点を当て、研修を進めていく。

(2) 目指す子どもの姿・教師の姿

学び方を決める子ども：児童の言葉で学習課題が設定された後、学び方を決める場面となる。学び方を決める際には、現状での理解度など、自分自身に対する理解が不可欠である。自分自身への理解を深めていくために日常的に行うのが「振り返り」である。学びの振り返りや学び方の振り返りを重ねることで、自分の現状を把握し、自分に合った方法を選択できる姿を目指していく。振り返りの質と機会を確保するために、今年度も家庭学習における振り返りの充実や、スタディ・ログを活用した学びの蓄積を増やすなどの取組を行う。

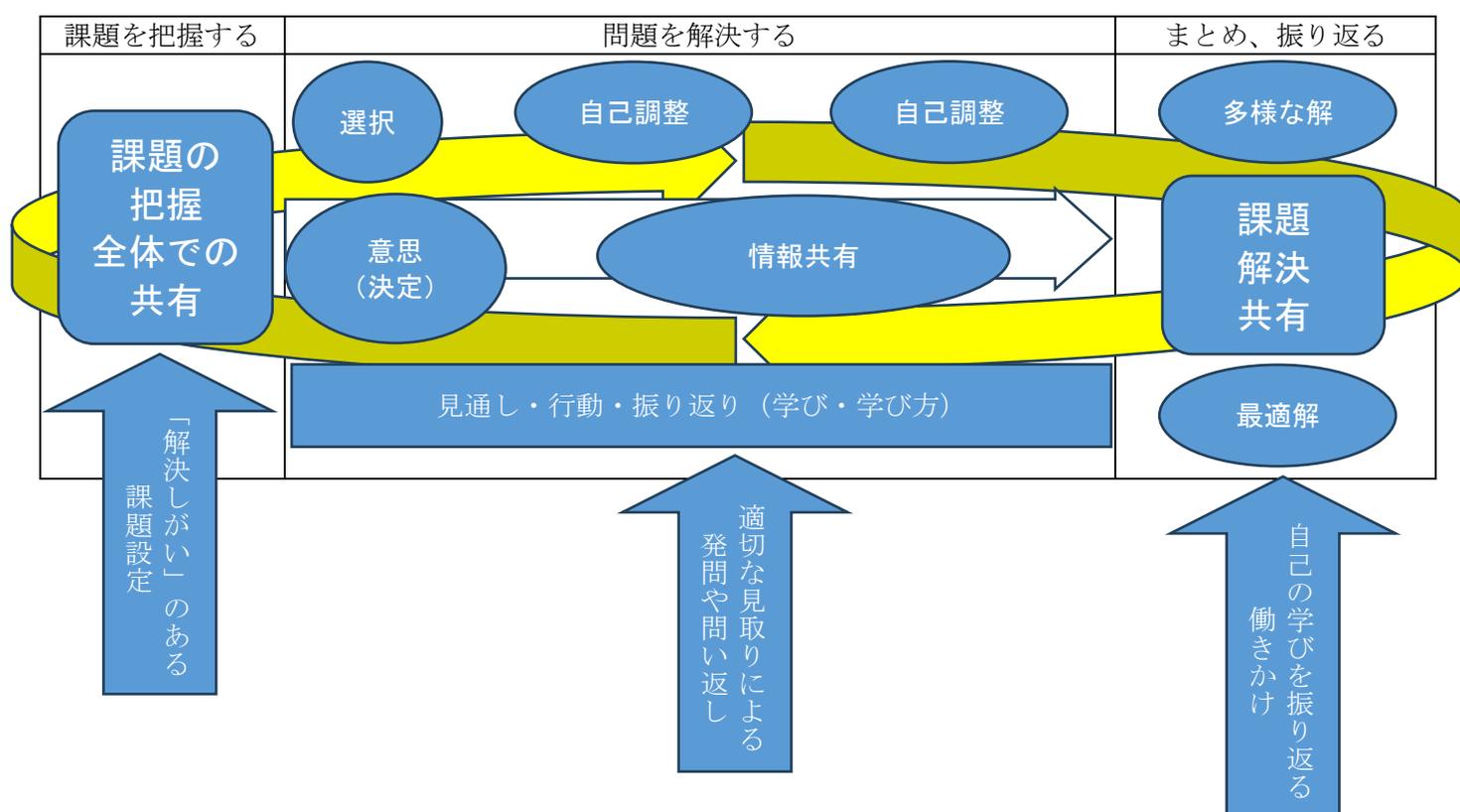
同時に、解決への見通しをもつことも必要である。どうすれば課題を解決できるのかを児童に問うことで、学び方（方法や必要な教具）について思考し、課題に合った方法を選択することができる考える。

課題の解決をする子ども：自分の学び方を決めた後、課題の解決を行う。個人で学びを深めるのもよいし、自分以外の児童と対話しながら学習を進めることもよい。途中で方法を変えることも可能である。学びの自由度が非常に高くなるが、児童は自分が今何を学んでいるのかを明確に意識し、学習を進めていく必要がある。目的を明確にするという意味でも、学習課題の設定は非常に重要になる。昨年までの研究にもあったように、「ズレ」を可視化し、共有することが学習課題の設定には有効である。児童の反応（つぶやきや表情）などを適切に見取り、児童の言葉で学習課題を設定する。

解決したことをまとめる場面では、学習課題と正対するまとめを、児童の言葉を用いて書くようにする。また、まとめと振り返りの差異を明確に示し、児童のメタ認知能力を高めていくように、振り返りを行う。振り返りの視点等については別途示し、各学年の発達段階に応じた指導をする。

解決場面における教師の在り方：自由度が高い解決場面において、教師の見取りや働きかけは非常に重要である。児童が学びを深めていくために、どの場面でもどのような働きかけを行うのか、その意図や発問の精選などを日常の授業の中から意識して行うことを意識し、授業改善を進める。

(3) 目指す単元の学び



3 研修の方法

(1) 研究授業

- ・全学級担任は、公開授業を行う低・中・高学年部に分かれて事前の検討会、協議会を行う。教科は、「国語」「算数」「社会」「理科」とする。低学年は、「生活科」、スマイル学級に関しては、「生活単元」「自立活動」も可とする。
- ・下越教育事務所のプロジェクト支援訪問の際に、授業公開を行う。（年間2回）

(2) 校内研修

全国学力学習状況調査やNRTの分析研修を行い、関川小学校の児童の実態把握に努める。
日々の授業をよりオープンにし、日常の授業を話題にするように努める。

4 検証と評価

(1) 研究授業

研究授業については、下記の2点で検証を行う。

	視点	検証方法	評価方法
①	解決場面における教師の働きかけが、児童の学びを深めることにつながったか。	・働きかけに対する児童の発言や記述 ・児童の振り返りの記述（一単位時間）	児童の振り返りの記述に、振り返りの視点を生かした記述がどの程度あるか、その内容は、学びを深めているといえるか、授業者、参観者で協議する。
②	単元が、児童が学び方を決めたり、協働しながら課題を解決したりする構成になっていたか。	・児童の振り返りの記述（単元全体）	児童の振り返りの記述に、単元を通した学びについて記載されており、その内容が検証の視点にどの程度あてはまるのか、授業者、参観者で協議する。

(2) 校内研修

研修内容や、自学級への活用状況を調査し、数値の変容から検証を行う。

実施時期：4月（診断）8月（形成）1月（総括）

【授業改善における質問項目】

- ① 校内研修における、授業改善の方向性について理解している。（数値による評価）
- ② 自身の授業において、校内研修で目指す授業がどの程度達成されているか。（数値による評価）
- ③ ②について）なぜそう思うのか。（記述による評価）
- ④ 解決場面における教師の働きかけについて、どの程度授業内で意識し、実施できたか。（数値による評価）
- ⑤ 単元構成を、児童が学び方を決めたり、協働しながら課題解決したりするようにしたか。（数値による記述）

【学級経営における質問項目】

- ① 目指す児童像を意識し、学級経営に取り組んでいる。（数値による評価）
- ② 毎時間の振り返りや、日々の教育活動の場面で、振り返りの指導を行っている。（数値による評価）
- ③ 児童が安心して個別最適な学びと協働的な学びに取り組むことのできる環境となっている。（数値による評価）
- ④ 自身の学級経営上の課題を理解している。（数値による評価）
- ⑤ ④について）それはどのようなものか。
- ⑥ ④⑤について）それらの課題を解決するために、方策を立て、実行しようとしている。（数値による評価）

5 校内研修組織

